

学校教育目標		目指す子どもの姿(中・長期的目標)		総合評価		
よく気づき よく考え よく働き 進んで学ぶ子ども		1 自分で気づき 自分で考え 進んで学ぶ子ども(自主性) 2 よく働き 最後までやりぬく子ども(意志力) 3 手足を動かし 進んで体を鍛え 頭を働かせ 豊かに感じとれる子ども(豊かな情操) 4 一人一人のよさを認め 助け合える子ども(共生) 5 安全に気をつけ 進んで身体をきたえる子ども(健康安全)		下半期、「ICT機器を用いた授業改善」「一人一人の児童の成長を認め、児童が安心して自分を表現し学べる授業(環境)」を意識したことで、分かったと実感できた児童が増えた。良好な人間関係が構築できたことで、「悩みを相談できる友達がいる」と感じる児童が多い。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、ほとんどの行事が中止や縮小、内容の変更となり、諸行事やふだんの学校生活への達成感や充実感が持てなかったことは事実である。来年度は、コロナ禍でも「何ができるか」「どうすればできるか」を考え、児童の学校生活に対する満足感を伸ばしていくことを重点に考えていきたい。		
今年度の重点目標				評価	成果と課題 改善策・向上策	
【なるほど!そういうことか!】 学力向上の基盤をつくる(知)				B	・下半期、一人一台端末の活用が、各学級でさらに進んだ。来年度は、学力向上につながる情報端末の活用方法を考えていきたい。	
【聴こう みがこう 心と言葉】 豊かな心を育てる(徳)				B	・互いを認め合える学級集団に育っている。良い姿、見本となる言動を積極的に周りに伝えることで、広げていきたい。	
【身体みがきで伸ばすぞ体力】 健康な体を育む(体)				B	・通年、コロナ禍のため、運動や遊びに制限をかけなければならなかった。来年度は、教室内や自席でできる運動遊びを取り入れていきたい。	
評価【 A:達成できた B:おおむね達成できた C:やや達成できなかった D:達成できなかった 】						
領域	対象	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 改善策・向上策	
教育活動	教育課程・学習指導	1 聴く・伝える	・子どもたちが興味関心を持ち、聴こうとする学習提示があったか。 ・話し合いの時間が確保され、友の意見に耳を傾け、自己の考えをさらに深められる機会となっていたか。 ・自分の考えを相手にわかるように伝えるため、具体的にわかりやすい伝え方の指導をしたか。	B	・単元や授業に子どもたちが興味関心を持てるような学習提示の方法を意識的に講じることができた。 ・感染警戒レベルが高かったため、ペアやグループで友達同士の意見交流をする場面を仕組めなかった。やや教師主導の授業になってしまった。 ・教師や友達の話・発言を丁寧に聞く「聞き方」の指導を繰り返した。	・教師自身が伝えるモデル・聴くモデルを示していく。 ・教師や友達の話・発言を丁寧に聞く聞き方の指導を、今後も繰り返していきたい。 ・児童の学習したいという意欲(心)を揺さぶるような発問ができるように、教材研究を深めていきたい。
		2 基礎基本の確実な習得	・学習のねらいを明確にするため、わかったこと、できたことを振り返る時間が位置づけられていたか。 ・ドリルの時間の内容が基礎的事項の定着につながったか。 ・1時間の中に、書くことを位置づけたことで、自分の考えが明確になっていたか。	B	・週1のドリル(朝の活動)を位置づけ、Chromebookを活用しようとする学級も増えてきた。 ・個人追究に時間を割いたため、振り返りの時間を確保できない授業もあった。 ・1時間の中で、「書く」活動を意識的に位置づけた。	・週1のドリルの時間を充実させるために、学年内で実施する内容を検討・共有していきたい。(一人一台端末の利用) ・短時間でも振り返りの時間を確保するようにしていく。 ・必ず「書く活動」を取り入れるように、授業を仕組んでいく。
		3 たくましい体づくり	・校庭や体育館で積極的に体を動かし遊ぶため、体を動かすことのよさを体感させる指導をしたか。	B	・コロナ禍のため、休み時間や授業で、自由に遊んだり友だちと交流したりすることができなかった。子どもたちにとっては、ストレスになっていたと思われる。	・教室内や自席で行える簡単な運動遊びを実践していく。 ・感染レベルに応じて、体育の授業の準備運動で体づくり運動を取り入れていく。
		4 心を磨く清掃	・清掃の仕方の指導をし、定着しているか。 ・無言で行うことの価値を伝えたことで、無言で集中し、責任を持ってやり遂げようとしていたか。 ・自分の気づきが生かされた清掃とするため、自分の気づきを振り返る機会が保障されていたか。	B	・各学級で清掃の流れが確立しており、自主的に清掃をしている。 ・高学年を中心に、「黙って」「時間いっぱい」「すみずみまで」の清掃が定着している。	・主体的な清掃活動にするために、どこを磨けばさらに美しい学校になるのかを考えさせたい。 ・教職員も常に児童といっしょに清掃活動を行い、良い場面を短学活で取り上げていきたい。
生徒指導	1 響くあいさつ	・子どもたちが自分から挨拶をするように教師が率先して挨拶を投げかけたか。	B	・「まずは教師から」を念頭に、子どもたちへ積極的に挨拶をした。 ・少しずつではあるが、自主的に挨拶ができる児童が増えてきた。	・児童の前に「まずは教師から」を継続していく。 ・道徳や学級活動で、挨拶の意味や大切さを継続して、児童に考える場面を設定していく。	
	2 人間関係作り	・人とのつながりや友達関係のあり方を見つめ直す日々の学級指導、道徳教育ができていたか。 ・日常から子どもたちのよさをクラス全体に広めようとしたか。	B	・道徳や学級活動の時間を利用して、良好な友達関係を築くための方策や温かい学級づくりができるための工夫を考えた。 ・短学活で学級や友達の言動の良さを共有する(認め合う)時間をとることができた。	・良好な人間関係づくりができるよう、構成的グループエンカウンター(仲間づくり)を取り入れていく。 ・短学活で一日を振り返る活動を取り入れ、良さを広める。	
学校運営	地域との連携	1 地域素材の教材化による学習の充実	・地域に出かけ、人との関わりを授業づくりに結びつけられたか。 ・総合など地域学習を学年に一度は位置づけたか。	B	・感染警戒レベルが高かったため、例年のように、地域の方と関わった学習を数多く計画することができなかった。感染症対策を丁寧に講じて、低学年が学校近辺に出かけ、人・もの・ことと関わることはできた(例えば、2年生は蚕の学習で地域との関わりがある学習ができた)。	・感染警戒レベルに左右されてしまうが、相手方と連絡を取り合い、可能な限り、地域のよさ、人の生き方のすばらしさに触れる学習を取り入れていきたい。多くの人にボランティアとして協力していただけるように支援を募っていく。
		2 キャリア教育	・地域の名人、達人を授業に招き、子どもたちが地域のよさ、人のすばらしさを感じたり、学んだりする機会となったか。 ・自分の生き方について考える素地ができたか。	B	・感染警戒レベルが高かったため、地域の名人・達人と関わった学習は難しかったが、クラブ活動や生活科等で地域の名人・達人をお願いすることができた。名人や達人から、技を学ぶことができた。	・感染警戒レベルに左右されてしまうが、地域の名人や達人とオンラインで交流する方法も検討していきたい。 ・名人や達人の生い立ちにも触れ、生き方も学んでいきたい。
		3 地域・PTAとの連携	・地域のボランティアの方々の力が学習に生かされたか。 ・学校便り、学年便りなどを通して、保護者の学校への理解を深めようとしたか。	B	・コロナの感染警戒レベルが高い状況が続いていたため、地域のボランティアの方々との活動はできなかった。 ・週1回の学年だより、月1回の学校だよりを発行し、保護者の皆様に学校教育活動を紹介し、理解や協力を促すことができた。	・今後も、学校だより・学年学級だよりを発行し、学校教育の理解に努めていきたい。 ・週1回の学年だより、月1回の学校だよりを発行し、保護者の皆様に学校教育活動を紹介し、理解や協力を促すことができた。
	1 子どもが自ら動き出す授業を目指す	・授業公開を通して、互いの授業を見合い授業改善に取り組んだか。 ・児童の発言を大事に、学習が深まる授業に取り組めたか。	B	・教育課程研究協議会(特別支援教育)に向けて、学級内のだれもが安心して授業に取り組める方策を考え、校内で共有することができた。 ・児童と教師、児童と児童とのやり取りを大切に授業を心がけた。	・情報端末の活用についての研修も進めながら、子どもたちの良い学びに変えていく研修を計画して行っていきたい。 ・教師間で授業を見合う機会をとっていきたい。	